

一生勉強、一生青春

—高校卒業までの過ごし方、大学や社会に出てからの過ごし方を考える—

学校法人 有朋学園
理事長 林 明夫
(国立大学法人宇都宮大学
大学院工学研究科客員教授)

皆様があとでお読みになりやすいように、QandAの形でレジュメを作りました。

Q1：高校での学習は、大学や短期大学、専門学校、専修学校に進学したあとに役に立つのですか。社会に出て働くとき、社会的な活動をするとき、人生を送る上で役に立つのですか。一生役に立つのですか。

A：(1)皆様が高校を卒業してから進学なさる大学や短期大学、専門学校、専修学校などの「高等教育機関」での学習の前提は、中学校や高校などの「中等教育機関」での学習です。ですから、高校での学習はすべて役に立ちます。中学校や高校で学んだものの中で、役に立たない内容は一つもありません。

(2)社会に出て働いたり、社会的な活動をしたりするときにも、中学校や高校で学んだ内容はすべて役に立ちます。一人の人間として、自分自身の人生を充実させ、「よく生きる」ことを目指す上でも、中学校や高校で学んだ内容はすべて役に立ちます。

(3)このように、進学したり、仕事や社会的な活動をしたり、よく生きるためには高校で学んだことがすべて役に立つのですから、大事なことは何だと思えますか。それは、中学校や高校の教科書や教材、ノートは絶対に処分しないことです。特に高校で学んだことは役に立ちますので、教科書や教材、ノートを生涯手放さずに絶えず身近に置いて、折に触れて有朋高等学院の先生方の授業を思い出しながら、何回も、何回も一生かけて読み返すことです。

(4)そして、中学校や高校で学んだ内容についてももう少し学びたいと思うことが少しでもあったら、自分自身の手でより深く「学び直す」こと。これからの社会では、社会人としての「学び直し」こそが求められます。

(5)このように、有朋高等学院で学んだことの上に、これからの人生を積み重ねることを心からお勧めします。

(6)高校の「教科書」や「教材」、「ノート」は、就職試験やあらゆる国家試験、資格試験、検定試験にも役に立ちます。様々な試験に合格するための学習をするときには、ゼロからスタートするのではなく、高校で学んだことからスタートすることが極めて効率的です。そのためにも、「教科書」や「教材」、「ノート」を廃棄しないことです。

(7)勉強や仕事、人生で行き詰まったときには、高校で学んだことを思い出すと未来が開けることがありますよ。

(8)このように、高校での学習は大学や仕事、人生の基礎ですから、卒業までの2か月間にもう一度、授業で学んだことを思い返しながらか、高校の「教科書」や「教材」、「ノート」などを今度はゆっくりと読み返すことをお勧めします。高校での全教科の学習は、高校生のうちにできるだけ多く済ませておくことです。

(9)わからないことばがあったら、「辞書(国語辞典、漢和辞典、古語辞典、英和辞典、英英辞典)」でゆっくりと調べてくださいね。

Q 2 : 大学などに進学したあとに大切なことは何ですか。

A : (1)入学時の「ガイダンス」、説明会には必ず出席して、進級や卒業の条件、単位の履修方法や授業の受け方、「大学」などでの「学習の仕方」を正確に「知る」ことです。

(2)「ガイダンス」では、「資料」に基づいて、進級や卒業に必要な「単位」の取り方、「授業」の選び方、「大学」などでの「学び方」や「生活の仕方」などが説明されます。後方の席では前に着席した人が妨げになってよく「理解」できないことがありますので、前の方、できれば最前列に着席して真剣に聞いてください。

(3)「ガイダンス」で配付された資料は、何回もよく読み直して「理解」に努めてください。わからないところがあれば、「学生課」や「学習支援室」に行つて十分にわかるまで教わってください。

(4)「単位履修」のポイントは、朝から夕方までビッシリと授業を入れないことです。月曜日から金曜日まで1日3~4コマにする。1~2日は2~3コマにして余裕をもたせることです。(短期大学や専門学校、専修学校は別です。1日5~6コマ入れないと進級や卒業に必要な単位が取得できないからです。)

(5)大学の授業は1コマ90分です。90分の授業を15回受講して2単位となります。学期の最後には必ず単位認定試験があります。この試験を受けるには、一定の日数以上の出席が求められます。遅刻や早退、欠席が多いと試験は受けられません。この試験で一定の点数、例えば60点以下ですと、単位が取れないことが多いようです。親切な先生は再試験や再々試験をしてくれますが、あまり多くないようです。

(6)大学の授業には「予習」が求められます。教科書や教材を予め読んでから授業に出席することが求められます。大学の先生は学生が予習をしてきたことを前提に授業をする方が多いので、予習をしてから授業に出ないと授業が全くわからないことがよくあります。「授業が難しくてよくわからない」のは、「予習」をせずに授業に出席するからだと思われることが多いようです。

(7)「大学」の授業の「予習」をするときに大事なものは、「辞書」です。難しいことばや考え方がどんどん出てきますので、わからないことばがあったら「気持ちが悪い」と考えて、「辞書」を用いてよく調べることが大切です。

*「辞書」で調べたことばは「ノート」に書き写し、繰り返し読み直して「ことばの数」を増やすこと。「ことばは力」、「ことばの数は力」です。「語彙(ごい)数は学力」に直結します。

(8)大学では、「予習」をして「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨む」ことが大事です。何回もお話して恐縮ですが、「予習とは、よくわからないことをはっきりさせて授業に臨むために行うもの」です。このような形で予習をしていくと、興味、関心、意欲、問題意識が高くなりますので、大学の先生の授業が俄然(がぜん)おもしろくなります。この「予習」は、1回の授業について普通「90分以上」かかります。

(9)大学では、十分に時間をかけた「授業後の復習」も大切です。かなりのハイスピードで授業が進み、参考文献も大量に配付されますので、授業を振り返りながらもう一度教科書や資料、ノートを読み返し、必要なことをノートにまとめることが大事です。授業中に配付された資料は、放っておかないで、「教科書」を読む丁寧さで、「辞書」を用いてゆっくりと読み込むこと。

(10)この「復習」は、1回の授業について普通「90分以上」かかります。

Q3 : えー、大学の授業は1回90分で、その1回の授業について90分以上の「予習」と90分以上の「復習」、つまり3時間以上の「予習」と「復習」が求められるのですか。

A : (1)その通りです。ですから、授業は1日に「3～4コマ」、週に1～2日は「2～3コマ」の日をつくったほうがよいのです。

(2)大学生は学習することが本業、仕事ですので、1回の授業について90分以上の「予習」をしてから授業に出る。90分の授業に出たあとは、90分以上の「復習」をする。これは当然と言えます。

(3)では、どこで「予習」や「復習」をしたらよいのか。資料は家やアパート、下宿、寮にはないことが多いので、「大学図書館」で授業の「予習」と「復習」をすることを私はお勧めします。

(4)一番よいのは、朝、開館と同時に「大学図書館」に入って予習や復習をし、そこから授業の教室に行く。「大学図書館」の閉館時間直前まで予習や復習をする。「大学図書館」は土曜日や日曜日でも開館しているところが多いので、必要ならば土日も「大学図書館」で学習することです。「大学図書館」が休館のときは、近くの公立図書館で学習するとよいでしょう。最近の学生は「大学図書館」の活用の仕方を知らない人が多いので、多くの「大学図書館」は利用者が少なく、とてもよい雰囲気です。以前の「大学図書館」は利用者で溢(あふ)れかえり、座席は奪い合いました。今は設備も格段によくなり、夢のような快適さです。必要な本は他の「大学図書館」などから取り寄せてくれるサービスもあります。PCも使えます。

Q 4 : 大学ではコンピュータのスキルが必要ですか。

A : (1) 大学では、履修届をはじめ、すべての届け出や申請、お知らせ、先生方とのやりとり、レポートの提出などが PC を通して行われるところが大半です。

(2) ですから、ワードやエクセルの初級、中級、上級と、今から少しずつ PC のスキルの向上に励むことをお勧めします。大学に入学したあともスキルを磨いてください。

(3) 皆様は卒業式を終えても 3 月 31 日までは有朋高等学院に在籍する当校の生徒です。先生方と相談の上、もっと PC を習いたい方は遠慮なく高校生のうちにスキルを身に付けてくださいね。

Q 5 : 大学での生活で気をつけたほうがよいことはほかにありますか。

A : (1) タバコと酒(アルコール)はできるだけ控えること。

(2) アルコールは飲み慣れない人が短時間に大量に飲むと急性アルコール中毒になることもあるので、「少しずつたしなむ」こと。特に「日本酒」は飲みやすいので、「ゆっくりとたしなむ」こと。

(3) 「タバコには手を付けない」のも一つの生き方。

Q 6 : 社会に出て働くときに大切なことは何ですか。

A : (1) 企業をはじめ、すべての仕事には社会的使命(mission ミッション)があります。また、すべての仕事には「顧客(お客様)」がいます。仕事とは、お客様の問題を解決してお客様のお役に立つことです。「顧客」の「問題解決」は、「社会の問題解決」にもつながります。まとめていうと、仕事とは、お客様のお役に立つことで社会のお役に立つことです。

(2) ただし、「製品・サービス(Product)」だけではなく、「価格(Price)」、「流通(place)」、「広告(Promotion)」も大事です。製品やサービスがお客様の問題解決になっても、価格が高すぎたり、不便な場所で提供したり、広告が顧客とのコミュニケーションになっていなかったりしたのでは、お客様のお役に立つとは言えません。

(3) 競争相手もどんどん登場します。人口構造や為替、景気の動向も仕事に大きく影響します。

(4) しっかりとした「組織」、「経営方針」のもとでの「採用」や「研修」、「人事」、「配置」、「処遇」、企業や職場を支える「人づくり」も欠かせません。

(5) 事業を時代の変化に応じて変えること、海外展開も求められます。

(6) 「労働生産性」を上げるためのバラツキの解消、改善活動や標準化、品質管理も大切です。「5S(整理、清掃、整頓、清潔、躰)」は仕事の基本のキです。

(7) 仕事をしていく上で、社会人として学ばなければならないことは山ほどあります。社会に出て仕事をする人こそ「学び」続けることが大切です。

Q7：最後に一言どうぞ。

A：(1)「古典(日本や世界で長く読み継がれた本)」との時空を超えた対話で「思慮深さ」を身に
着けよう

—「書き抜き読書ノート」を—

(2)「新聞」を読んで、「自分で考える力」、「批判的思考(critical thinking クリティカル・シン
キング)能力」を身に着けよう

—「スクラップブック」を—

(3)「多様な集団で活動する能力」を身に着けよう

—英語プラス1か国語のコミュニケーション能力を—

(4)「自律的に活動する能力」を身に着けよう

—志を高く持って生きる—

(5)「一生勉強、一生青春」

—教育ある人とは学び続ける人—

(6)ただし、「健康第一(身体の健康、心の健康を大切に)」

—人生は長い。無理のない人生を—

(7)自分のよさを認め、自分のよさを少しずつ伸ばそう。他人のよさを認めよう

御清聴を感謝します。

御質問、御意見、コメントをお聞かせください。

以上

